

平成 29 年度自然史連合の参加に関する報告書

『概要』

平成 29 年 11 月 4 日(土)にアクアマリンフクシマで開催された自然史連合体験講座において、「サンゴ礁がやってきた！！」と題したタイトルで体験講座を実施した。内容として、ポスター等を用いた一般来客者向けへのサンゴ礁の説明の他、サンゴ骨格の他、生きたサンゴを展示することで、様々な年代層の来客者を対象に日本サンゴ礁学会より、サンゴ礁保全に対する普及啓発活動を行った。

『自然史連合大会詳細』

講座名：「サンゴ礁がやってきた！！」

日時：平成 29 年 11 月 4 日(土) 10:00～16:00

開催場所：ふくしま海洋科学館(通称:環境水族館アクアマリン福島)

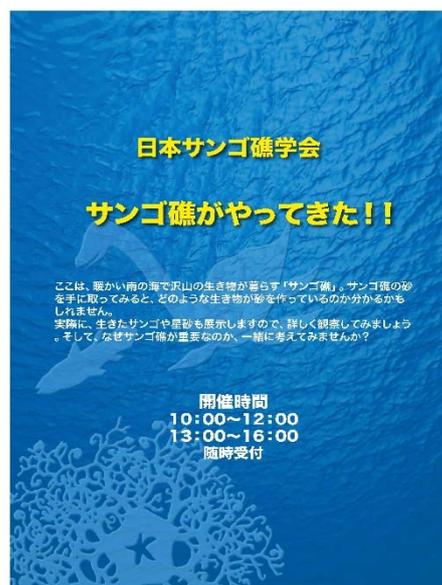
〒971-8101 福島県いわき市小名浜字辰巳町50

掲載要旨集

以下の文章を作成し、展示会会場やイベント要旨集への掲載を行った。

「ここは、暖かい南の海で沢山の生き物が暮らす「サンゴ礁」。サンゴ礁の砂を手にとってみると、どのような生き物が砂を作っているのか分かるかもしれません。実際に、生きたサンゴや星砂も展示しますので、詳しく観察してみましょう。そして、なぜサンゴ礁が重要なのか、一緒に考えてみませんか？」

右の図は、実際に展示会場で使用された体験教室のパネルである。



日本サンゴ礁学会会員参加者

- ・ 栗原 晴子 (琉球大学 助教)
- ・ 梅澤 有 (東京農工大学 准教授)
- ・ 土川 仁 (コーラル・ネットワーク)
- ・ 井上 志保理 (株式会社ユージェナ)
- ・ 石川 恵(国立研究開発法人産業技術総合研究所)
- ・ 大野良和 (沖縄科学技術大学院大学 JSPS PD)

※ 計 6 名

協力者

- ・ 樋口 富彦（東大大気海洋研究所 研究員）
※ 実体顕微鏡の接眼レンズに接続可能なカメラアダプターの提供
- ・ 湯山 育子（筑波大学 特任助教）
※ *Acropora tenuis* の初期ポリプの提供

参加団体名

日本サンゴ礁学会、日本魚類学会、日本菌学会、日本藻類学会、日本 DNA 多型学会、日本第四紀学会、日本動物学会、日本動物園水族館教育研究会

※ 計 8 団体

他参加団体講座名

- 日本魚類学会：「本物の深海魚を手にとって、観察してみよう。」
- 日本菌学会：「身近で不思議な菌の仲間たち！」
- 日本藻類学会：「海藻グッズをつくろう」
- 日本 DNA 多型学会：「DNA 多型（様々な生物の DNA 塩基配列の違い）」
- 日本第四紀学会：「身近な物から絵の具をつくろう-第四紀学の見かたで石や砂を考える-」
- 日本動物学会：「発光生物を観察しよう」
- 日本動物園水族館教育研究会：「うちで学ぶ動物のくらし」

参考サイト

自然史連合のホームページ

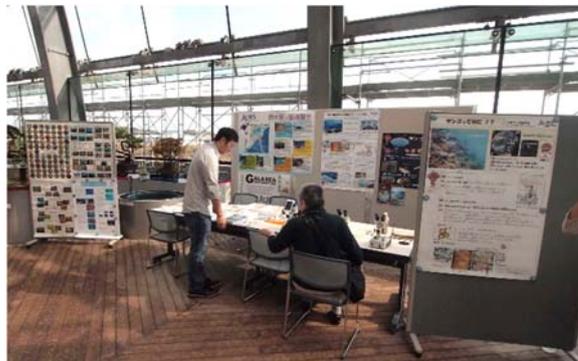
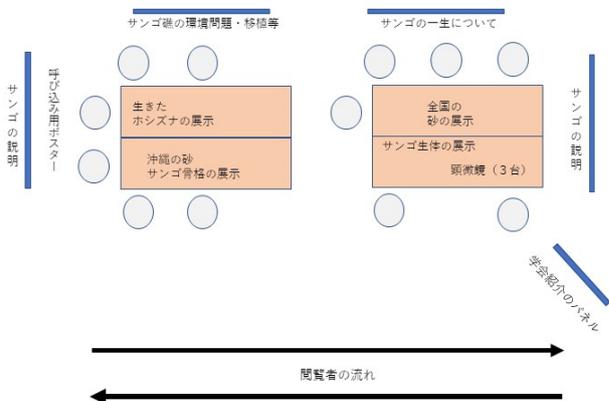
http://ujsnh.org/sympo/20171104_fukushima/index.html

アクアマリンふくしま Facebook

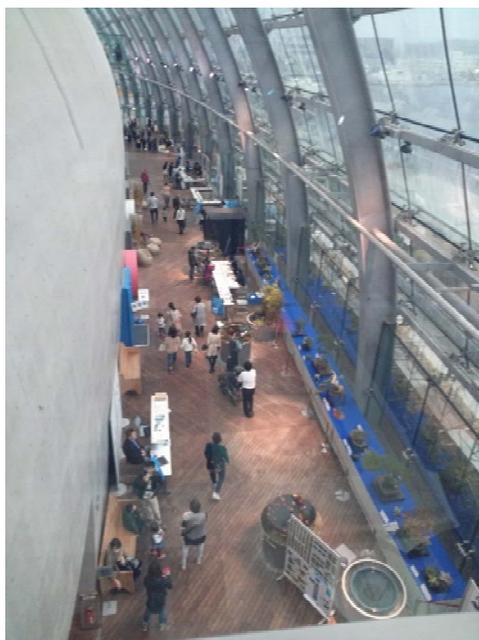
<https://www.facebook.com/events/1822130834494569/>

当日の様子

アクアマリン福島展示会場 スペース



実際の展示スペースの様子（上図）



2階から見た展示会場(左図)

顕微鏡を使用した生体観察(右図)

『まとめ』

約 200 名と多くの親子連れに足を運んでいただき、とても盛況となった。特に「ホシズナ探し」は好評で、沖縄の海岸の砂を展示すると、子供たちが熱中する様子を見ることが出来た。実際に生きて動いているサンゴを顕微鏡で初めて観察したときの方々の驚きの表情などを見ると、生体や実物を用いた企画を考案していく方が、より参加者の興味を引き付けることから、今後ポスターはあまり多く展示する必要はなく、実物を用いた出展が推奨される。参加者の中には、理科教員やサンゴ保全に興味を持つ方がいて、「サンゴの白化現象」や「サンゴ移植」について興味を持つ参加者が見受けられた。